単元（題材）の評価規準を考える

児童生徒が，「設定した単元（題材）の目標を達成した姿」を具体的に考えて，学習評価を行うための評価規準を設定します。単元（題材）の評価規準は，観点別学習状況評価の３観点で設定します。

評価規準の表記

評価規準	文末例
知識・技能	～している。
思考・判断・表現	～している。
主体的に学習に取り組む態度	～しようとしている。

（文末例は各教科の表記（p. 2-11）を参考にしています）

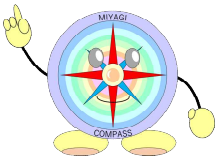
単元（題材）の目標及び評価規準の設定例

例：小学部　生活単元学習「目指せ！お買い物達人！（買い物学習）」

	知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
単元の目標	買い物の手順を理解して，金銭を用いてお店で買い物をすることができる。	店員と買い物に必要なやり取りをすることができる。	買い物を通して，人と関わることのよさに気付き，手順に沿って，自分なりの方法で買い物をしようとする。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	買い物の手順を理解して，金銭を用いてお店で買い物をしている。	店員と買い物に必要なやり取りをしている。	手順に沿って，自分なりの方法で買い物をしようとしている。

「学びに向かう力，人間性等」の評価規準を設定する際，観点が「主体的に学習に取り組む態度」に変わる理由については，p. 2-36 を見てください。

単元（題材）の目標について，「教科別の指導」では，教科の目標及び内容を基に設定します。「各教科等を合わせた指導」では，実際的な生活場面で発揮される具体的な姿を設定します。

「各教科等を合わせた指導」の場合，単元（題材）の目標が具体的になれば，評価規準が目標と同じ内容になります。単元（題材）の目標を，更に具体的にした評価規準を設定するという考え方もあります。